

製品名: C1q-B ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab07722**

研究使用のみ

概要

| | |
|--------|--|
| 説明 | ウサギポリクローナル抗体 |
| 宿主 | うさぎ |
| 応用 | WB,IHC,ICC/IF,ELISA,FC |
| 反応性 | ヒト、ラット、マウス |
| 標識 | 非共役 |
| 修飾 | 未修正 |
| アイソタイプ | IgG |
| クローン性 | ポリクローナル |
| 形態 | 液体 |
| 濃度 | 1mg/ml |
| 保存 | アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。 |
| 輸送 | 氷袋 |
| バッファー | 50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。 |
| 精製 | アフィニティー精製 |

応用

| | |
|------|---|
| 希釈倍率 | WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:500,ICC/IF 1:100-1:500,ELISA 1:5000-1:20000,FC 1:50-1:200 |
| 分子量 | 28kDa |

抗原情報

| | |
|--------------|--|
| 遺伝子名 | C1QB |
| 別名 | C1QB; Complement C1q subcomponent subunit B |
| 遺伝子 ID | 713.0 |
| SwissProt ID | P02746 |
| 免疫原 | 抗血清はヒト C1QB 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 161-210 |

背景

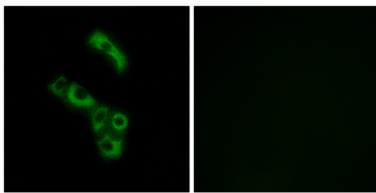
この遺伝子は、ヒト補体サブコンポーネント C1q の主成分をコードしています。C1q は C1r および C1s と会合して、血清補体系の第一成分を生成します。C1q の欠損は、エリテマトーデスおよび糸球体腎炎に関連しています。C1q は、6つの A 鎖、6つの B 鎖、お

よび6つのC鎖の計18のポリペプチド鎖で構成されています。各鎖には、N末端付近に位置するコラーゲン様領域と、C末端の球状領域が含まれています。A鎖、B鎖、およびC鎖は、1番染色体上にA-C-Bの順に配列されています。この遺伝子は、ヒト補体サブコンポーネントC1qのB鎖ポリペプチドをコードしています[RefSeq提供、2008年7月]。疾患：C1QBの欠陥はC1q欠損の原因です[MIM:120570]。これは、反復性感染症とループスエリテマトーデス様症状の高頻度発現を伴う稀な遺伝性疾患です。補体古典経路の活性化の喪失を特徴とします。機能：C1qはプロ酵素C1rおよびC1sと結合し、血清補体系の第一成分であるC1を生成します。C1qのコラーゲン様領域はCa(2+)依存性C1r(2)C1s(2)プロ酵素複合体と相互作用し、C1qの球状頭部が免疫複合体中に存在するIgGまたはIgM抗体のFc領域と相互作用すると、C1が効率的に活性化されます。オンライン情報:C1QB変異db,PTM:O結合型グリカンは、翻訳後に付加されたヒドロキシル基の酸素原子に結合したGlc-Gal二糖で構成されています。類似性:1つのC1qドメインを含みます。類似性:1つのコラーゲン様ドメインを含みます。サブユニット:C1は、モル比が1:2:2のC1q、c1r、およびC1sのカルシウム依存性三分子複合体です。C1qサブコンポーネントは9つのサブユニットで構成され、そのうち6つはA鎖とB鎖のジスルフィド結合二量体であり、3つはC鎖のジスルフィド結合二量体である。

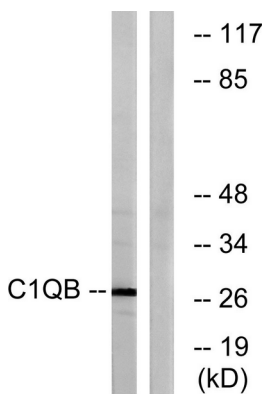
研究分野

補体および凝固カスケード、プリオン病、全身性エリテマトーデス、

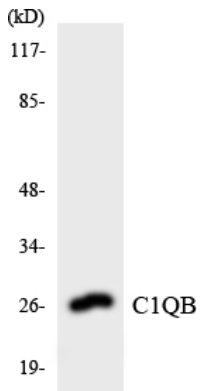
画像データ



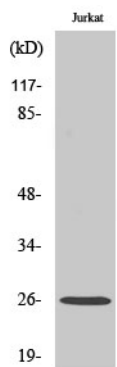
C1QB抗体を用いたA549細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロックした画像です。



C1QB抗体を用いたJurkat細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロックされている。



C1QB 抗体を使用した Jurkat 細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。



C1q-B ポリクローナル抗体を 1: 1000 に希釈して様々な細胞をウェスタンブロット分析した。